

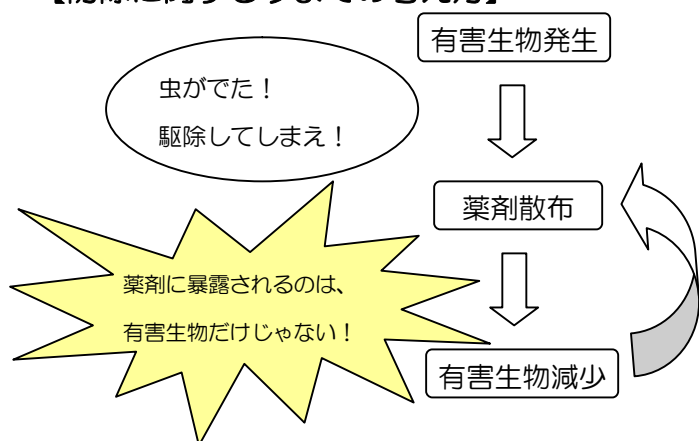
建築物ねずみ昆虫等防除における IPM について

【IPMとは】

IPMとは「Integrated Pest Management」総合的有害生物管理

薬剤に偏った防除方法では、「人の健康リスク」と「環境への悪影響」に及ぼすことから、これらのリスクをマネジメントし、各々の施設に適した、より効果的な方法でもって施設管理をしていくものです。

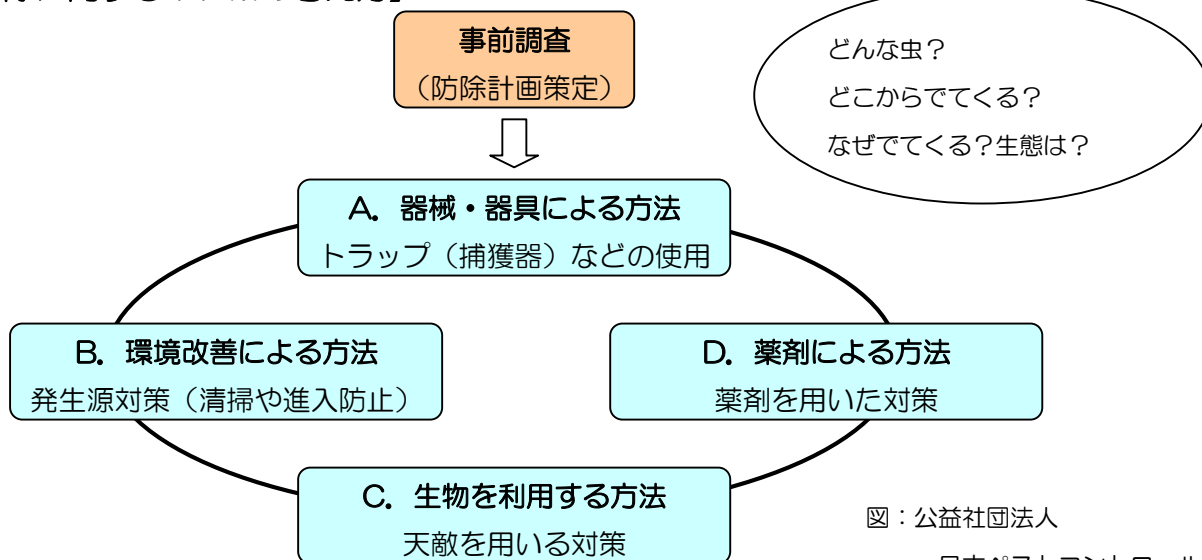
【防除に関する今までの考え方】



殺虫剤による対策は、他の対策に比べて、あまりお金や時間がかからないため、昔から広く使用されてきている。しかし、有害生物にだけよく効いて、その他の生き物（人を含む）や自然環境に全く影響のない薬品は存在しません。【薬剤暴露】

また、使い続けることで、その薬剤に耐性をもった種が誕生することもあります。

【防除に関するIPMの考え方】



図：公益社団法人
日本ペストコントロール協会

A：「物理的対策」器械や器具で防除したり駆除したりする。

B：「環境的対策」有害生物の住みにくく生まれにくい環境に改善する。

C：「生物的対策」天敵で駆除する。

D：「化学的対策」薬品で防除したり駆除したりする。

IPMは、単一の方法を表すのではなく、防除の概念を表す言葉です。

事前調査をした上で、施設によってA～Dのバランスや強化事項を検討し実践します。

【手順】

①防除対象生物や場所ごとに「維持管理基準」を定める。

（目標はゼロにすることではなく、許容範囲にとどめること。→施設によって異なる。）

②事前調査により問題点や維持管理基準を超える場所をその都度見定め、状況に見合った最適な防除対策を実施する。

③効果を判定する。

☆ ちょっと休憩☆ IPMのはじまりって？

もともとは農作物を有害生物から守る手段として始まったもの。くりかえし殺虫剤などで害虫駆除を行い続けて殺虫剤が効かない虫が出現してしまう事もあり、もっと効果的な方法を考えたのがきっかけです。

それが今では、School IPM（学校）、文化財 IPM（博物館・美術館等）などに広がっています。

【IPMのいいところ、悪いところ】

メリット

- ・発生源が特定でき、根本を解決することが可能である。
- ・薬剤暴露の低減化
- ・薬剤コストが大幅に減る。
- ・長期的な管理ができる。

デメリット

- ・調査の手間、効果出現までに時間がかかることがある。
- ・初期投資が高くなることがある。
（ただし、根本解決が可能なので、長い目でみれば安価）

課題

- ・関係者の意識の維持

PCO 業者に頼る部分もありますが、日常業務における整理・整頓・清掃は、施設を使用する方の意識次第です。ただ、担当者一人では施設全体を保つことはできません。施設関係者全ての方の理解と意識の維持が重要になってきます。

浜松市保健所では・・・

旅館業・公衆浴場業・興業場等の許可申請・特定建築物の届出受付をし、維持管理状況の確認を業務のひとつとして行っています。

これらの施設は、ねずみ・昆虫の防除が必要ですが、IPMに基づけば、より効果的に、かつ、人・環境に優しい防除を行うことができるので、不特定多数の方が出入りする施設では、「もってこい」の考え方だと思っています。

浜松市では、施設の設置者の皆さまへのお知らせを行うとともに、IPMについて初めのご相談窓口としてご利用いただければと思います。

保健所生活衛生課 TEL：453-6112

FAX：459-3561

保健所浜北支所 TEL：585-1398

FAX：585-3671